



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

STARTS NEW

Vol.33

2014年春号

平成25年度 第5回全体研修会

「リフレクション」

～支援事例を鏡に自分自身を振り返る～

開催日時 平成26年1月25日(土) 13時30分～16時50分

開催場所 埼玉建産連研修センター(大ホール)

～「振り返り」を活かす正しい練習方法を身につけよう～

さる1月25日、埼玉建産連研修センターにて第5回全体研修が行われた。講師には精力的に全国で講義をされている神奈川県立保健福祉大学の峯尾武巳氏をお招きし、「リフレクション」という概念を取り上げ研修は3時間程行われた。最初の1時間はリフレクションを論理的に学び、残り2時間は実践練習となった。

～何事も実践練習が必要、観念だけでは向上しない～

最初にケアマネジャーは自身の感情コントロールが必要な職種であり、自身を振り返る客観的な目が必要との考えから、リフレクションの重要性が説かれ、そして効果的に行うには正しい方法を身につけなければ向上には繋がらないとのことだった。次に研修は実践練習に入り、二人一組で支援事例などを各々書き出



し、言葉でも伝え合い相互の価値、知識、技術を見直す練習を行い、その後グループになり練習で気づいた自分自身を発表した。

峯尾氏曰く、リフレクションは一人でも可能だが複数と話すことがとても重要であり、よってエピソードの意味を客観的に捉えられる。そして他人の考えを聞くことで自分自身を振り返るきっかけになる。これを繰り返して身につけて下さいと話をついで結んでいる。

研修後の声としては「受講者参加型の研修だったのであつと言う間の3時間だった」「これが理解できたら長くケアマネジャーを務められそう」との声があがつており、また一体感のある研修で充実したものになっていた。



昭氏は、やや辛口の説明であつたが、熱い思いが伝わる講演であり、時間もあつと言う間に過ぎてしまったように感じた。

内容は大きく分けて、「2015年介護保険制度改正の動向」「地域包括ケアシステムとは何か」「ケアマネジメンツの再確認」「介護支援専門員・ケアマネジメンツに対する指摘」の4つに分かれていた。

印象に残った点として、「今のケアマネの中には、要介護1で、週6回デイサービスへ行く理由は何かですか？」という質問に、きちんと説明できないケアマネがいるということであつた。根拠のないケアプランがある、また、説明できないケアマネがいる、介護保険サービスを使うためのケアマネジメンツになつていないか？本来の目的である、QOLは高いのか？地域生活はできているのか？などの点についての検討が、2次、3次の問題となつていゝるのではないかと、という指摘には、ケアマネとしてはつとさせられる思いであつた。

ケアマネは、介護保険制度の意味と、ケアマネジメンツの本質を再考

しなければならない。そのことから、「地域包括ケアシステムの概念の出現・広がり」「地域ケア会議、保険者機能の強化の重要性」が問題視され、



「課題整理票（暫定版）」ができたということであるが、これにより、「第2表は何故できたの？」という説明が、明確にできるといゝことが理解できた。

来年度の介護保険制度改正については、「医療・介護関連法案一体改革」といゝことから「医療と介護の連携強化」といゝことも、繰り返していゝられるところである。来年度の大改正に向け、常に、国の動向をきちんと把握し、理解し、自分の言葉で説明できるようにしなければならない。

ケアマネとして、利用者様、ご家族様が混乱なく、継続して、安心して生活できるように支援していきたいと、強く感じた講演であつた。

平成25年度 第6回全体研修会（行政合同研修会）

「平成27年度介護保険制度改正とケアマネジメンツの行方」
～保険者（行政）の役割とケアマネジャーのあり方～

開催日時 平成26年3月14日（金） 14時30分～16時30分

開催場所 武蔵浦和コミュニティセンター 多目的ルーム（9階）

第6回全体研修会（さいたま市と介護支援専門員協会合同研修会）は、「平成27年度介護保険制度改正とケアマネジメンツの行方」といゝタイ
トルであり、この時期だからこそ、きちんと理解しておくべき内容であつた。
講師の東洋大学 准教授 高野龍

第2回 見沼区ケアマネサロン

「こんな時、どの事業所を使いますか」

事例を通して皆さんの引き出しを教えてください

開催日時 平成26年2月12日(水) 14時00分
開催場所 七里コミュニティセンター 第2集会室

今回は、事例を通しながらケアマネ個人が頭の中に持っている事業所情報などの引き出しを開放し、個々の引き出しに新たな情報を取り入れたいと考え開催された。また、見沼区にて訪問歯科をされている、「なかむら歯科医院」の院長 中村浩高氏も飛び入りにて参加していただき、医院の特性や考えをお話しされ、ケアマネと協力していきたいとのことのお言葉をいただいた。

各テーブルに分かれ、用意された事例(三題)を基に各ケアマネが現在利用している在宅の事業所を出していただき、その事業所の特性、症例などを出し合った。

事例

「Cさん 男性(69歳) 介護度5 介護者は妻と次女(知的障害者)の3人暮らし。長女は海外。既往歴として脳腫瘍・糖尿病

い事業所を出していただき、選択した理由、またはその事業所の特色等について沢山の意見、情報が出された。

普段余り利用していなかった訪問系の事業所が色々出てきて、関わりが無かった事業所の情報(特色)が分かり、今までご利用者へのプラン作成においての情報の少なさ等を痛感させられた。

ケアマネ同士で、このような情報交換ができたことにより、今後のプラン作成においての幅が広がった。

今後も、情報交換を行っていき、利用者にあった事業所を選び、利用者に必要なサービス提供ができるようにしていきたい。



浦和区ケアマネサロン

「地域ケア会議」

開催日時 平成26年2月14日(金) 14時30分～16時30分
開催場所 埼玉会館5B会議室

愛の告白日として、また日頃の感謝を伝える日としてすっきり定着したセント・バレンタインデーの2月14日、浦和区の埼玉会館5B会議室にて浦和区ケアマネサロンを開催した。

今回のケアマネサロンは、さいたま市浦和区健康福祉部 高齢介護課課長 植村俊幸氏、課長補佐 兼山和夫氏をお招きして、平成26年度から本格的に動く「地域ケア会議」をテーマとして開催した。

参加人数は17名。当初27名の申し込みがあったが、関東各地で雪のため孤立化が起こり、埼玉県熊谷市でも62センチと観測史上最高の記録的な大雪となった降雪に見舞われた日と、交通機関の遅延、通行止め、担当していた利用者さんのサービス中止や転倒などハプニングが重なり、当日キャンセルがあったが、それでも最後まで17名のケアマネさんが参加した。

まず、植村氏からご挨拶をいただき、続いて兼山氏からさいたま市における「地域ケア会議」のご案内をいただいた。みなさんご存知のように、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、高齢者が尊厳を保ちながら、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、国は医療・介護・予防・住まい及び生活支援サービスが、日常生活の場で切れ目なく提供できる地域での体制、いわゆる『地域包括ケアシステム』づくりを推進している。これらに伴い多職種の協働のもと、フォーマルのみならずインフォーマルな資源やサービスも活用しながら、個別ケアの支援内容の検討を行い、その積み重ねを通じ地域包括支援ネットワークを構築するとともに、具体的な地域の課題やニーズを社会基盤整備につなげる一つの有効な手法として、「地域ケア会議」が位

置づけられていた。さいたま市では以前から行政区を単位として「地域ケア会議」を開催していたが、国の方針を踏まえ、これまでの行政区を単位としていた「地域ケア会議」は整理し、より効果的かつ実効性のある個別ケースの検討が行えるよう、日常生活圏域単位で「地域支援個別会議」を新たに設置することとした。

浦和区では独自に一部の地域包括支援センターが、平成25年度から「地域支援個別会議」を開催しているが、平成26年度からは全ての地域包括支援センターが主催者となり、この「地域支援個別会議」における個別ケースの課題分析等の積み重ねを通じ、より地域に密着したネットワークを構築するとともに、地域支援会議と相互に連動することによって、有効な支援方法や地域に共通する課題やニーズを明らかにしていきたいと考えている。

更には、地域包括支援センター区連絡会、地域包括支援センター運営協議会といった既存の会議を有効活用することで、地域づくり・資源開発

や政策形成を通じた社会基盤の整備へとつなげ、全4階層からなる会議をもって、さいたま市における「地域ケア会議」として整備する等のご説明をいただいた。

その後、全員で情報交換を行った。情報交換はバレンタインにちなんで日頃の自分にご褒美とチョコレートを味わいながら行った。地域ケア会議については「担当者会議とほどのように違うのですか」「地域支援個別会議にケースとしてあげるのとはどこが決めるのですか」などの疑問や「自分ではケアマネを行っているが同時に親の介護も行っている。是非モデルケースとして地域支援個別会議で扱って欲しい」など積極的なご意見もいただいた。

岩槻区ケアマネサロン

「在宅医療と連携」について ～意見交換会～

開催日時 平成26年3月19日（水）18時30分～20時00分
開催場所 コミュニティセンターいわつき 会議室A

3月19日、コミュニティセンターいわつきにて岩槻区ケアマネサロンが開催された。今回は在宅医療をテーマに薬剤師の方4名をお招きし、ケアマネジャー13名と

「二人ケアマネでは情報が少ないのでとてもありがたい」「このように行政の方と直接話す機会も少ないし、他のケアマネさんと話す機会も少ないのでとても良い機会です。また定期的に是非開催してほしい」など感想もいただいた。

今回のサロンでは「地域包括ケアシステム」に向けて、行政も含めた連携がますます重要だということを確認するとともに、ケアマネジャー同士の情報交換や仲間づくりが、非常に大切だということが実感できたサロンであった。

の意見交換会として実施された。薬剤師の中には地元で長く薬局を経営されている方や大手ドラッグストアー ウェルシア薬局の方など、同じ薬剤師職でも立ち位置の違う方

にお越しいただいた。

まずは、薬剤師の在宅医療における認知度や地元での在宅医療の現状、印象に残っているケースなどのお話をうかがった。薬剤師からは在宅医療の認知度はまだ低く、中にはケアマネジャーの対応が自分たちに厳しいなどの話があり、居宅療養管理指導を行っている薬局が少ないのは、店舗のマンパワーの問題と医師の理解不足が大半ではないかとの意見もあった。また、今後ターミナルや自宅で看取るケースが増えることと予測される中で、より一層、訪問診療や居宅療養管理指導も重要になるとの意見もあった。意見交換会が進むにつれて、薬局によつては処方薬をご自宅に届けるだけでなく、食料品も一緒に届けてくれるなどの情報も出ていた。

皆が口を揃えるのは、薬の疑問等は近隣の薬局に直接聞いて関わりを持つてもらいたい。そこから関係を築き在宅医療と介護の連携につなげてもらいたいとのことだった。認知症がありきちんと内服できていない方など、訪問看護の内服管理だけでなく、薬剤



師に訪問が入ることによって他の薬との飲み合わせや他の薬への変更等も随時行える。そのような連携がスムーズに行えれば、お客様のニーズにも素早く対応ができる。

今回の研修でケアマネジャーからは一人一人疑問や事例を挙げたが、在宅医療に關しての理解がもう少し必要ではと感じた。それは良い悪いではなく、知る機会が少なかったということであり、その点から見ても今回のケアマネサロン開催は、十分意義のある研修会であった。

「不適切ケアをキーワードに介護実践を考える」

開催日時 平成26年2月8日(土) 13時30分～16時30分
開催場所 プラザウエスト第2セミナールーム(桜区)

恒例となりました、神奈川県立保健福祉大学 峯尾武巳教授をお迎えしての研修会。

今回は「不適切ケア」をキーワードに、研修の前半が講義、後半はリフレクションの手法によるグループワークによる研修会であった。

この研修で学んだ内容を以下に要約する。



介護の質はそれに従事する一人ひとりの質に左右されるため、介護は労働集約の高い仕事と言える。そして、介護の質を評価する利用者はひとであるため、そこには多かれ少なかれ「好み」が存在する。つまり、介護の場面においてはユーザーの感情が優先されるの

である。ここに、介護は感情労働といわれる所以がある。この理解がない、つまり「介護は感情労働である」ことをはき違えて理解している限り、介護に従事するものは言葉や態度や表情に自身の感情を露わにしてしまう。こうして不適切ケアはいつまでも治らないのである。

翻ってみると、背景には介護職員の人材不足があり、質よりも量を優先せざるを得ないという現状がある。毎日同じことの繰返しで緊張感に欠け、次第に仕事に飽きてしまいか、離職率が高い。そして介護は小さなエリアで完結する仕事であるがゆえに、同じ地域で転職を繰返す例が少なくない。さらには、短時間労働が可能であるため、パートや非常勤職員が多く、また事業所も小規模なところが多



い。そんな背景もあって社会的評価は低く留まっている。しかし、その上で介護の質をどう高めていくのが課題なのである。

職員のストレスコントロールを図りつつ、自分に厳しく他人に優しい職場(組織)風土を作ること。職員教育は、

介護は、誰もが知っているようで実は誰もが共通して思い浮かべる特定のイメージがない、「イメージ化しにくい」という特徴を持つ。介護はひとに説明しにくいものである。このことは、介護はその職業に固有の言葉を持っていないと換言してもよい。故に介護に従事するのは、言葉を鍛える必要がある。

人権意識や虐待等の理論的理解に止まらず、接遇の具体的方法を繰返し習得すること、即ち練習が求められる。専門知識の習得は当然必要とされるが、加えて文章力(説明能力)を磨き、マネジメントやソーシャルワークの力をつけることが望まれている。

我々が必要とするのは「不適切ケアをなくす」ではなく「不適切ケアをしない」というスローガンなのである。

今回の研修会は、施設職員であれば参加可能なオープン形式で実施した。当研修会開始以降初めて、定員の倍近い多くの申し込みを受け、受付をお断りするという事態が生じた。30名の定員を上回る登録としたにも関わらず、当日、都心では45年ぶりとも言われた大雪の影響で多くの方が欠席となったことは残念である。所属事業所の内訳はやはり有料老人ホーム、グループホームの方

が多かった。適切なケアがなぜ起こるのかわかった」「今、直面している内容」「改めて、不適切ケアはしない」と宣言したい」との感想が寄せられ、大変有意義な研修会となったことを報告する。

記録的な大雪の中でも多数の参加がありました。
(2月8日プラザウエスト駐車場)

セルフアセスメントを試みた 会員 S

先日の行政合同研修会の際、東洋大学の高野先生から、「アセスメントからケアプランの課題が抽出されていない」等、ケアマネジャーとして厳しいお言葉を突き付けられ、「そんなことはないです！」と胸を張って断言できない情けない自分もいたりして…トホホ…。

という訳で、先ず自分をアセスメントしてみよう！と思い、現在職場で使用しているICFに基づくアセスメントシートを使い、自己チェック！

やってみると、さすがに『基礎生活動作』に関しては当然自立なんです、『個人活動の趣味活動』や『社会参加の人付き合い』のところが、できていない課題として浮かびあがってきました。

気が付くと、自宅と職場の往復で、趣味と言えないこともないが、実際習慣的にできていない…、友人とももう何年会ってないんだらう？と、自分の

老後が心配になっていたところ、高校時代の友人から連絡があり、10年ぶりに会うことに！

久々会う友人達は、みんな変わっておらずあの頃のまんま！焼き鳥屋で飲んだ後、高校時代よくやっていたビリヤードで2次会！楽しい時間を過ごしました。

セルフアセスメントを試みて分かったことは、日頃気にしないようにしていた『自分らしさ』に気付け、このままじゃダメだ！何かしなくちゃ！と思えたこと。

ご利用者の方に対しても、一緒に話を伺いながら、『自分らしさ』と一緒に気付け、その為の『らしさプラン』を立てることができるようにしていきたいと思いました！

「自分らしさって何だろう？」と思っているそのあなた！セルフアセスメント、やってみてはいかがですか？



平成 26 年度 さいたま市介護支援専門員協会

「通常総会 及び 全体研修会」開催のご案内

平成 26 年 5 月 17 日 (土) さいたま共済会館 6 F 6 0 1 第 1 ホール

通常総会 午後 1 時 4 5 分～2 時 5 0 分

全体研修会 午後 3 時 0 0 分～4 時 4 5 分

テーマ 「シニアの見方」と「シニアの味方」

～高齢社会のニューウェーブを探る～

事務局

〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1864-10

JS日進 さいたま市社会福祉協議会内 さいたま市介護支援専門員協会

電話 048-782-6839 FAX 048-782-6840

リニューアルしたので見てください～い!!

ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>

さいたま市介護支援専門員協会

検索